

知多支部



愛知県赤十字血液センター

灯火を消すことなく

永遠にと願う

愛の献血活動!

知多支部は恒例にならない、去る6月8日(木)に、日頃大変お世話になっている半田市の商社、(株)武豊屋の社長さんのご好意により、事務所の一角を利用して頂き、午後1時30分より開催、これらの活動についても、献血担当役員はPRに余念なく、全組合員に呼びかけ成果を得たようだ。参加された方々の中には、ご婦人同伴も見受けられ微笑ましい光景に胸を打たれた。

従来は200ccの献血だが、今回は始の方々から400ccの提供を頂き、充分な貢献がえられ、役員達は安堵の胸をなでおろした次第。これらの行事を計画するに当り、参加者には漏れなく記念品を抽選にて



▲ 献血に協力する知多支部の組合員

差上げ、参加された方々から好評を得、大成功の内に終了した。これらの行事は今回で第26回目を迎えるが、14世紀を通過、苦勞して築かれた諸先輩に心から賞賛し、末永く意志を継がれ永遠にと活動を願うものである。

沼澤

津島支部親睦旅行 全板大会県板コース

今年の全板大会は神奈川県というところで、親睦旅行を兼ね津島支部は県板コースで大いに参加させていただいた。

当日六月九日は朝からの雨で集合時間も一番目の朝六時で誰一人遅刻することなく出発できた。バスに乗り込むと皆早朝のせいか無口。次々と各集合場所での参加者が乗り込み、小牧インターから高速に入り横浜に向け出発した。雨のためバスの窓から眺める景色は今一つであったが、バスガイドがベテランの方で、車中は退屈することなく過ごせた。しかし早朝から事故が続いたらしく、海老名を過ぎたあたりから渋滞になり三時間以上の遅れで会場入りの頃には、他県の参加者は帰路につきはじめていた。三十分程会場を見学できたが、人も少なく出店者も片付けを始めているところもあり、さびしく感じた。時間があれば会場回りの建物を探索したかったのだが残念だ。

会場を後にし、ベイブリッジを渡り東京アクアラインの海底トンネルを抜け海ほたるを見学した。展望台では曇り空で風も強く、周囲に海が広がり雄大な景色であった。



▲ 津島支部のみなさん

海ほたるを後にし、千葉県に入り宿泊場所の小湊に着いたのが午後七時過ぎ。結局この日我々は十三時間のバス旅行になった。ホテル到着後いっせいに大浴場に殺到し、疲れを癒す間もなく宴会場の食事となった。村上理事長の挨拶が終るとコンパニオンが参加し長旅の疲れも何のその、一七〇名もの大宴会が始まった。地元の太鼓やカラオケで宴会も二時間程で終了し、その後コンパニオンを引き連れ二次会のホテルのスナックで深夜まで盛り上がった。翌朝のチェックアウトの精算に驚くのは言うまでもないが……。

朝、ホテル前にある誕生寺と鯛の浦の湾内を船で鯛の餌付けを見学後ホテルを出発、丸竹おみやげセンターでほとんどの方がみやげを買って、金

谷港からフェリーに乗り三十分で神奈川の久里浜港に着着後昼食をとり、あとは終着地に向い出発した。帰りのバスの中でビンゴゲームで盛り上がった。

今回の全板大会は、大会こそあまり記憶には残らなかったかもしれないが、バスの長旅といった形で記憶に残るのではないだろうか。

津島 猪飼

東三支部 思い出深い全板大会

六月九日(土)と一泊二日の日程で組合員二十九名を乗せたバスは全板大会に悪天候の中、豊橋を午前七時三十分に出発した。

高速に乗り組合長挨拶、ガイドさん挨拶のなかで交通事故が四件あり東京方面が渋滞しているとお知らせもあったがさほど気にもせずビールが配られ朝の乾杯、車内は相変わらずにぎやかで早速カラオケが始まり、リクエストは無し、ガイドさんが入れた曲を十八番の人が唄うのが東三の恒例。神奈川県に近づくにつれ渋滞がひどくなり、海老名サービスエリアで遅い昼食をとりサービスエリアから本線へ入るのに二、三十分はかかり、更に二、三時間渋滞した。岐阜県板や静岡県板のバスもあり皆さんやきもきされたら

県板事務局 夏期休暇のお知らせ

日頃は、組合事業にご協力を賜り有り難うございます。県板事務局は、8月14日(月)から8月17日(木)までお休みさせていただきます。

東三 吉田

太陽光発電

クリーンエネルギー

五月二十四日、岡崎技術工学院にて、西三板金連合主催の、太陽光発電の研修会があった。地下資源の枯渇、地球の温暖化、又、世界中で資源としての森林が失われていく中で、資源を必要としない、地球にやさしい太陽光発電が、注目されているであろう。

それも、大規模な発電所というのではなく、個人で、各家庭に必要な量を、賄おうというのである。もちろん、一年を通じて、その全てを、というのではなく、一部を、又、半分程度は、との事であった。

現在、東南アジアの、熱帯雨林も、多くが失われ、異常気象を引き起し、森林火災、自然災害等も、世界的規模で広がっている。しかし、今、日本に住む我々は、それらの事実を肌で感じる事なく、「対岸の火事」程度に思っ

はいないだろうか。車の出す CO₂、NO_x、産廃処理工場からの、ダイオキシン、様々な有害物質を含んだ、工場排水、そして、各家庭からの汚水、それらの行き着く先の浄化能力は？

だが、これらの事がこのまま進む事はないだろう。あらゆる方面で、研究、開発が進められ、地球の保護が行われている。その一つとして、今回の太陽光発電、一戸の家庭で 3KW のシステムを導入すれば年間 2000 円程度、SO_x、NO_x が削減されるという。この国だけでも、どれほどの省資源になるだろう。これは PV (太陽光発電) だけに限らず、まだまだ考えねばならない問題は多いけれども有意義な一日であった。

知立 齋藤孝行

経営研修会に参加して感じたこと

5月24日岡崎技術工学院において、西三板金連合主催の経営研修会が行われた。今回のテーマは「太陽光発電システムについて知ろう」であっ

た。メイン講師は埼玉県板根理事長平野光男氏。平野氏は御自宅にもこのシステムを設置されているとの事。経験に裏づけされた言葉は、わかり

易く納得がいった。太陽光発電システムの入り口に立った多くの人達にとって、非常に身のある研修会になったのではないだろうか。

94名という大勢の参加者数が物語る様に、不況の深みの中まで多くの板金業者が、遅まきながら何か新しい施工技術、施工分野を切実に探し始めている。「太陽光発電システム」には環境問題という鏡に照らしあわせても、実に膨

太陽光発電

大な仕事量が埋蔵している。数歩立ち遅れたら、もう遅いという状況になるかもしれないのだから。長い間、板金業は自然を相手に仕事をしていた。太陽光がプレザントしてくれたこのシステムを、板金屋主導の施工分野にする事を自覚し、平野氏が雑談のなかで言われた様に、世間に板金業をアピールすべきなのである。

特徴の見当がつく。同じ族は似通った性質を持つ。電子の軌道には 2 個までの K 殻と 8 個までの L 殻、M 殻、等々の電子殻があり、物質はチャンネルがあればこの電子殻に電子を一杯に満たそうとする。水は K 殻電子 1 個の水素 2 個の原子が、L 殻 6 個の酸素 1 個の原子と結合し、L 殻 8 個となる。これをイオン結合と言う。夫婦の結合の様だ。塩素の分子は M 殻に 7 個の電子がある 2 個の塩素原子がお互いに 1 個ずつ電子を出し合い電子を共有する事によって 8 個の電子を持つとみなす。まるでオカマの結合の様。金属は電子が原子間を自由に移動する。間男が花から花へとスワッピングする様だ。これを金属結合と言う。この金属の電子が一極から十極に移動すると、これが電流となる。太陽電池は P 型半導体、i 型半導体 (Si 系)、n 型半導体と 3 層からなり、原理は普通のバッテリーと共通点がある様だ。P 型半導体 (Si + B 二ホウ素系)、n 型半導体 (Si + P リン系)。ホウ素は L 殻に 3 個の電子、リンは M 殻に 5 個の電子を持ち、合計 8 個となる。この 3 層の半導体に光が当たると自由電子が生じ起電する (光電効果)

太陽光発電はこれからのエネルギー問題、地球環境の問題の一つの解決策だが、電気

5月24日、岡崎技術工学院において、西三板金連合主催の太陽光発電システム研修会が行われた。埼玉県板金組合副理事の平野光男氏に講義をしていただいたが、なかなか難解であった。各自に説明書が配られ、月星サントイルーフめぐみちゃんと言う商品を使って説明をいただいた。めぐみちゃんには右が十極、左が一極のモジュールと、右が一極、左が十極のモジュールの 2 種類があって、これは例えば 1 段目と 2 段目を直列の回路でつなぐ為に必要と言われた。電力 (例として水刀) × 電圧 (水の速さ) × 電流 (水量) だが、太陽光発電は直流である。モジュールを直列につなぐと電圧だけが増し、並列につなぐと電流だけが増

してゆく。直列回路はつないだモジュールの一つでも欠損があるとその回路はダメになり、またあまり電圧が高くなりすぎると、交流に変えるインバーターなどの器具が破壊されるそう。なぜ太陽光で発電できるのだろうか？ 半導体とは電導体と絶縁体の中間の物質で、ある条件の下では電導体として作用する。物質の原子は十の陽子、中子、一の電子からなり、その物質が何であるかは原子の中の陽子の数で決まり、単体では陽子と電子の数が同数で安定している。高校の化学でメンデレーフの周期表を学んだが、陽子 1 個の水素、陽子 2 個のヘリウムと全ての種類の原子を I 族 ~ VIII 族まで周期表に並べてみるとその物質の属性、

最後に用語集の英語を訳してみた。アニーリング (アニール) 焼き戻し、鍛える。アレイ配列する コンデンサー (コンデンス) 圧縮する・凝縮する) インバーター (インバート) 逆にする、転化する) セル 小室、細胞 モジュール 基本単位、基準寸法 ストリング ひと、糸

西尾 大橋



集光発電 モジュールの裏面

熱田・南支部親睦旅行

梅雨入りして間のない、6月20日(火)～21日(水)伊勢賢島「宝生苑」への親睦旅行会が開催されました。

緑支部から2名の参加を頂き熱田神宮東門に集合、名阪高速を伊勢に向かった。途中、おとなの館「国際秘宝館」を見学しスカイラインを経て「金剛証寺」に参拝して午後5時頃、賢島「宝生苑」に着き、各部屋で休憩の後、午後6時より宴会に入り、緑支部前支部長伊藤氏の乾杯の音頭により、コンパニオンを交えての、歌に、雑談にと、景気の悪い仕事のことなど忘れて和やかな内に2時間あまりの

南に玄関のある家、南向きの家は、夏涼しい冬暖かい。東又は西に玄関のある家、東西に向いている家は、夏暑く冬寒い。

夏涼しい家は冬暖かい

南向きの家は、東西の側の窓の面積は小さく、朝日や西日の家に入り込む日光の量が少ない。窓の面積の大きい南側は夏は太陽の位置が高いので家の中に日差しが入ってこない。夏は涼しい。冬は太陽の位置が夏より低いので、日中に室内に日差しが多く入り、

ある。また北側の窓は直射日光が入らず、良好な間接照明が得られる。美術室などは北側の部屋にあるのが普通である。

宴を終了した。翌日、二見ヶ浦伊勢神宮(内宮)に参拝おかげ横丁を散策して「椿大社」に参拝、少しでも建築業界が良くなる事をお願いして午後5時半頃、帰着した。



▲海女と真珠のふるさと伊勢志摩旅行記念

昭和中支部 12日 通常常会 10名
熱田南支部 17日 定例会
20・21日 親睦旅行(伊勢方面) 20名
瑞穂支部 1日 支部会①保証制度の勤め②青年部について③総代会の結果④支部ゴルフコンペ 開催予定7月23日

7月各支部の動き
西尾 大橋
碧南支部 21日 青年部定例会
豊田支部 9・10日 支部親睦旅行 全板大会参加
17日 第3回役員・班長会
25日 青年部 入野製作所工場見学
西尾支部 6日 支部役員会
知多支部 4日 第1回支部役員会
8日 献血運動
東三支部 3日 定例会
8日 青年部定例会
9・10日 支部親睦旅行 全板大会参加

冬暖かい。東西に向いている家において南の窓の面積は小さく、室内に入る日光の量が少ない。窓の面積の多い東側、西側は夏は長時間、冬は短時間、朝日と西日が室内に入り込む。したがって夏は暑く、冬は寒い。(朝日と西日は太陽の位置が低く室内の奥まで日差しが入る。)

中支部 17日 常会兼ねて食事会 9名
瀬戸支部 9・10日 全板大会参加 支部総会 9名
小牧支部 9・10日 支部旅行として全板大会参加9名
津島支部 5日 定例会 13名
9・10日 全板大会参加 12名
江南支部 9・10日 親睦旅行(全板大会) 17名

岡崎支部 15日 役員会 6名
5日 青年部役員会
18日 マス釣り大会(青年部) 30名
29日 支部役員会①全板大会報告②岡板懇親事業報告③在庫材料の掃について
豊田支部 9・10日 支部親睦旅行 全板大会参加
17日 第3回役員・班長会
25日 青年部 入野製作所工場見学
西尾支部 6日 支部役員会
知多支部 4日 第1回支部役員会
8日 献血運動
東三支部 3日 定例会
8日 青年部定例会
9・10日 支部親睦旅行 全板大会参加

編集後記

六月二五日、第四二回衆議院議員選挙が行われた。今回の小選挙区での投票率は六二・四九%で史上二番目に低いものに終わった。棄権した四割近い有権者は「内閣支持率の低さ、三党連立体制の批判や不支持、各政党が魅力的な選択肢を示せなかった」事など、それぞれの考えがあつての行動と思われるが、国民の義務である投票権を行使してこそ選挙の結果がより正確に現れることを認識すべきである。まして二十一世紀の日本の行方を任す政党や議員を選出する絶好の機会であつたのに「寝ている」場合ではなかった。

選挙結果については、不評悪評逆風の中で与党連立三党は六五議席を失いながら、何とか絶対安定多数二七一議席を確保したが、総得票数では野党側が上回り連立与党には厳しい審判が下がった。ただ今回の選挙制度「小選挙区・比例代表制」は一区一人当選の小選挙区で政権党は多大の恩恵に預かった。比例代表制で幾らかは救われるものの大政党に有利とされる問題の多い選挙制度見直しの声が出はじめています。また今回の選挙結果でよく言われるのが

都市型と農村型。民主・共産・社民の支持層は都市部に多く自民支持者は地方に多い。愛知県を見ただけでも名古屋市中では民主が独占、地方は自民の構図。ある大学教授は「地方では依然として利益誘導型のドブ板選挙が幅を利かせていて、政策を訴えても票に結び着かない。都市部では価値観の多様化により自由に考え投票する無党派層に変わってきた」という。選挙戦も追込みに入った六月二十一日全板国保の理事会で東京の折、偶然にも都市型農村型を見聞させる体験をした。休憩時間に地方の理事さん二人と雑談中に選挙の話になった。二人とも典型的な与党支持者で「先生は助成金や組合振興はもとより会合には必ず顔を出して親交を深めており他党の入る隙間はない」と力説。一方、理事会が終り新宿の西口に出てびっくり仰天。共産党不破委員長の街頭演説中、あの広い西口広場が支持者で埋め尽くされていたのだ。委員長と呼び掛ける一声一声に支持者が一心同体で反応する熱気はさすが東京を感じた。いずれにしても世襲議員とドブ板選挙の改革を望みたい。

六月二十八日(休) 曇
三五二一 編集会議
委員 八名 出席
午後五時 終了 (S)